

事務事業評価票

80	横断旗を活用した交通安全対策 (警視庁交通部)	事業開始	平成 22 年度
		事業終了予定	平成 - 年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何を指すのか							
<p>近年、交通事故死者数は横ばい状態であるが、横断歩道を横断中の左折・右折車両による死亡事故が後を絶たず、歩車分離信号設置などの対策を講じている。</p> <p>小学生の交通事故は、低学年での発生が多く、特に小学校1年生及び2年生の歩行中の交通事故が多い。昨年は戦後最少を記録しているが、都内の交通事故死者数(218人)の更なる減少を図るためには、子どもの交通事故を防止するとともに、小学校1年生のうちからしっかりと交通安全意識を浸透させる必要がある。</p>							
【平成20年 7～12歳児童の交通事故状況】(単位:件)							
区分	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	合計
死亡	2	1	-	-	-	-	3
重軽傷	580	518	500	423	375	367	2,763
合計	582	519	500	423	375	367	2,766
根拠法令等							

2 どのように取り組み、どのような成果があったか							
<p>過去に(財)東京交通安全協会の協力を得て、誰でも使えるように横断歩道近くの信号柱などに横断旗を設置し、交通事故防止対策を図った。これは、学校での交通安全教育と併せて子どもに左右確認などを習慣付ける教育効果を生んでいる。</p>							

【財務局評価】

3 どのような課題や問題点があったか	
<p>誰でも使えるように信号柱などに据え置く形で設置していた横断旗は、盗難されたり、壊れて使用できなくなるなどのケースが相次いで発生し、保守管理が困難である。</p> <p>小学生が道路を横断する際に、交通指導員等が横断旗を活用して安全を確保している交差点もあるが、交通指導員等が配置されていない交差点においては、子ども自身の判断で横断している現状がある。</p>	

4 局として、事業をどうしていきたいか			
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他

<p>小学校を通じて、小学1年生に横断旗を貸与、あわせて交通安全教育を実施することで、小学生の交通安全意識を高め、これまで以上に小学生の交通事故を減少させていく。</p>	
---	--

事業費	20年度決算額	- 千円
	21年度予算額	- 千円
	22年度見積額	43,424 千円

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか	
<p>小学1年生から交通安全教育を徹底することは、今後の交通安全対策としては有効と考えられる。</p> <p>横断旗の活用は、小学生により良い交通習慣を身に付けさせる上で効果的と考えられる。</p> <p>横断旗を街頭設置型ではなく、学校貸与型とすることにより、盗難をなくすと同時に、これまで街頭設置横断旗のなかった交差点においても使用できるというメリットもある。</p>	

6 22年度予算で、どのように対応したか			
拡大・充実	見直し・再構築	移管・終了	その他

要求どおり予算を措置する。		
事業費	22年度予算額	43,424 千円